

第5回 協働のまちづくり推進委員会 議事録

【日 時】平成26年7月15日（火）18時30分から

【場 所】市庁別館2階 会議室B

【出席委員】北向秀幸委員長、浮木隆副委員長、佐藤博幸委員、五戸保夫委員、齊藤綾美委員
田頭順子委員、西島拓委員

【事務局】市民連携推進課4名

1. 開 会

（司会：市民協働グループリーダー 中里）

2. 委員長あいさつ（北向委員長）

本日は、『「元気な八戸づくり」市民奨励金・災害に強い地域づくり応援コース』の審査ですが、このコースは来年までとなっております。応募してくる事業内容がだいぶ似通ってきておりますし、審査しにくい部分があるかもしれません。書類審査のみとなっておりますので、それぞれの地域の取り組みを見てご協議のほどよろしく願いいたします。以上です。

3. 案件（平成26年度「元気な八戸づくり」市民奨励金・災害に強い地域づくり応援コース申請事業の書類審査）

【制度概要、審査の流れ及び審査方法について】

（資料に基づき事務局から説明）

【申請書提出団体及び事業名称について】

（資料に基づき事務局から説明）

【申請書類に基づく採点・評価（5件）】

1 「多賀台連合町内会」／「多賀台地区防災訓練事業」

■ 委員長

それでは、委員の皆様から申請のあった5件の事業につきまして、ご意見をいただきたいと思っております。申請された5件ですが、私としては正直かなり似通っている印象を持っております。しかし、点数自体はやはりばらつきが出ていますので、まず1件1件お話をし

てから、全体について意見交換ということによろしいのかと考えております。

それではまず多賀台連合町内会ですね。多賀台地区防災訓練事業について、皆さんからのご意見をいただきたいと思います。

書類審査の意見一覧というのも資料にありますので、そちらも見ながらご意見をいただきたいと思います。また、せっかく集まっておりますので、新たな疑問点や意見を出していただいてもいいです。

私から意見を言いますと、防災マニュアルというのはどういうかたちなのか、何か方向性があるかということが気になるころではあります。自主防災会を立ち上げる時に、マニュアルというのほどのようなものかなと思っておりました。やはり基本的な避難のやり方、考え方とかそういう動きの、現場での話なのか動きの話なのか、それとも運営の話なのか。こういうことが起きたときにこうしましょうという内容なんですかね。

■ 事務局

地域に防災士の方がいらっしゃるので、その人を講師に勉強してから内容を詰めるということです。

■ 委員長

なるほど。恐らく現場というか、そのタイミングで起きた時に、アクションってどうするかと。

■ 事務局

そうですね、運営的な話を中心になると思います。

■ 委員長

そういう話に多分なってくるのでしょうかね。組織の立ち上げということですね。

■ 委員

8月10日にお披露目だから、ほとんどできているんじゃないですか。

■ 事務局

6月から7月にかけて、その防災士の方からの講習を4回か5回かにわたってしているそうです。ですから叩き台は作っている最中かと思います。

■ 委員長

あとは訓練ということですね。

皆さんから何かご意見はないですか。事業の実施に期待される効果の中で、地区社協で取り組んでいる災害弱者などについて。

■ 事務局

疑問点で出ていたところで、災害弱者把握マップの作成が大切なので、地区社協と協力したらいいんじゃないですかというご意見があったのですが、すでに地区社協が災害弱者把握マップというものを作っていて、そちらを活用して、更に上手い具合に連動できるようにその体制を整えたいと言っていました。

■ 委員長

すでに社協さんの方で現状把握はされているのでしょうか。

■ 事務局

はい。他に疑問点が出ていた部分もお答えしてもよろしいですか。

■ 委員長

はい。

■ 事務局

今まで防災訓練をやっていなかったのかという質問について、連町としては実施していません。個々の単町内会の中の自主防災会の組織は、多賀台ヒルズと高森自主防災会の2つです。多賀台ヒルズでは東日本大震災があった後3月に防災訓練をしており、連合町内会会長としては参加し図上訓練と参集訓練をしております。

防災グッズ類は何を購入するのかということについては、これも防災士の方の講習を受けて、優先順位をつけて必要なものから揃えたいということでした。また、東日本大震災のときに多賀地区が被災して、160人受入れたのに、連町としての道具は、自家発電一つあるだけで、家から持ち寄ってやりくりした経緯があり、自分たちが被災する場合だけではなく、津波のときは高台の自分たちが助けることを想定して、被災者を受け入れるためにも資機材を揃えていきたいということでした。

■ 向委員長

はい。皆さんから特に出なければ、次に入りますが、よろしいですか。

■ 委員

震災から3年過ぎて、地域として、そういう全体的な防災訓練がようやく行われるというところからすると、ちょっと立ち遅れている印象があります。だから遅まきながらそういう組織を立ち上げて、防災マップを作成してということで、地域として動き出したので、それは支持してあげたいと思います。初期の段階の支援ということになりますかね。そういう気持ちは否めないなという気がするんです。多賀は地域的には津波の被害を受けやすい地域です。もう少し早くそういう組織なり体制が作れなかったのかなというふうな気持ちはあります。

■ 委員長

はい。それでは次に入ります。大久喜町内会自主防災会の大久喜町内会自主防災会防災訓練及び避難対策等事業について、意見一覧からいきますか。その方が入りやすいですね。

2「大久喜町内会自主防災会」／「大久喜町内会自主防災会防災訓練及び避難対策等事業」

■ 事務局

はい。分かりました。質問に出ていたところで、主に実現性のところですよ。

コピー機が必要なのかという意見がお二人から出ております。これは広報ちらしや事後報告、そのときに全戸配布するということで、今後も活用したい。去年は会社にコピーを頼んで通信運搬費としてコピー代を何部と会社にお問い合わせしていたので、それを自前でできるようにしたいということでの申請でした。

町内会に拡声器が全くないのでしょうかという質問については、黄色のファイルにつけていた応募団体事業一覧の備考をご覧いただきたいんですけども、防災危機管理課で行

っている自主防災会が資機材を揃えるための助成金「自主防災組織育成事業補助金」があるのですが、昨年メガホン型の拡声器を購入されています。ただメガホン型だと音の届く範囲がちょっと狭くて、想定した範囲に全部届かないということなので、より広範囲に音が届くように更に今回はマイクスタンド型のものを購入したいということです。

対象者 120 人でチラシの用紙等にかかなりの予算を割いている。誘導板設置代は不要なのではないかという質問ですが、誘導板の設置は基本的に全部無料で町内会の方々でやっております。看板の作製自体は看板屋さんへ発注するけれども設置は町内会で、例えば私有地の場合もあるので、土地の使用許可をもらいながらそこに設置して、やっていくということでした。

避難訓練チラシ 280 部とあるが、前回作ったマップと違うのかという質問ですが、チラシやマップという表現が随所に見られて紛らわしいんですが、地域用の防災ハンドブックのようなものを作成したいということでした。ただそれは作ったらいんじゃないかと話に出ているだけで、どれくらいの内容でどれくらいのボリュームという具体的な内容までは詰めてないということで、チラシという表現をしているということでした。それで防災ハンドブックを作ることになれば、印刷製造費として印刷会社にお問い合わせすることになるので、その割合が変わるかもしれません。そうしたい場合はこちらに相談していただくということにいたしました。以上です。

■ 委員長

はい。皆さんからご意見をいただきたいと思います。ちなみに購入備品に関しては特にこういったガイドラインがあるわけではなく、今回もそうですが、それぞれの申請が出た場合にそれぞれの場面で判断いただく資料を準備していく流れで判断しているようです。

今回はまずコピー機の話は皆さんの方から意見が出ていましたので、これについて改めて説明いただきました。それから拡声器は今回 2 つ備品購入する団体がいくつか出てきているので、この辺はご意見があるのかと思っておりました。その辺何かありませんか。コピー機はあればいいですか。予算の範囲内だし用途としてもいいという判断なのですか。

■ 委員

大久喜は生活館があります。そこに置くということですか。自分の家に置くのですか。

■ 事務局

どこに置くということまでは確認していませんが、自宅ということはないでしょう。みんなで使えるようにするということですよ。

■ 委員長

備品に関して思うことは、必要かどうかというより、運用がきちんとできるかということです。運用と維持管理をきちんとしてくれれば、その時の判断で助成金を出したというふうについてもいいかと思うので。運用面が何も書いていないので、その辺が出てないとなかなか予算的に計上したいところではあるので、運用面を確認してもらいたいです。

■ 委員

防災訓練の場所が大久喜小学校校庭、また大久喜生活センターとなっている。生活館です。

■ 委員長

普段から結構な枚数のチラシを作っているのですか。

■ 事務局

回覧板ではなく、全戸配布にするので枚数がかさんでしまうのではないかなと思います。

■ 委員長

枚数までは聞いてないですよ。

■ 委員

大久喜に限らずなんですけれども、訓練後の報告会や反省会のようなものを開催しているかどうかということが私は大事だと思っております。

大久喜がこの事業の実施スケジュールでいきますと 10 月 13 日に訓練を実施して、11 月上旬に地域での防災訓練の実施計画というのを報告及び実施事業の残務整理みたいな書き方になっていますけれど、訓練結果の報告があるのかもし事務局で聞いておりましたら教えて欲しいと思います。

■ 事務局

そこまでは把握していません。

■ 委員

防災訓練以外にも汎用性があるから地域活動に使うでしょう。言いかえれば市民活動団体、町内会もですがやはり輪転機に結構人気があって、会誌とかチラシとかはうちの地区では公民館で刷ったり、あるいは市民活動団体は市民活動サポートセンターへ来て刷ったり。こちらの町内でも単独で色々なものを毎回 100 世帯くらい刷っているのですか。

■ 委員

会員数は 120 名とある。

■ 委員

会員は 120 人といえば、ここはほとんど 100% 町内会員なんですかね。他の地区と違って、町内会の加入率が高いんじゃないですか。

■ 委員長

特記 PR 事項の中に書いていますね。

■ 委員

全部採択しても、予算は足りていますか。

■ 事務局

30 万円かける 5 団体で 150 万円。予算通りです。

■ 委員

地域活動にも使うのでしょうか。

■ 事務局

そうですね。世帯数の少ない町内会なので、当然自主防災会だけでなく町内会活動でも使う予定でいるようです。

■ 委員長

それは別に構わないですよ。トナー請求するわけじゃないから。

■ 事務局

はい。

■ 委員

自分たちで消耗品を用意していかなければならない。本体だけですね。町内だと買い取りじゃないと任意の団体は難しい。

■ 委員長

コピー機買い取り。機種見て分かりました。

■ 委員

どの程度使うかですけどね。コピー機の方がインク代が高くついたりしますけどね。

■ 委員長

これは使ったことがあります。白黒でトナーが1枚7円くらいですね。だから、120人で毎回8,000円くらい。9,000円くらいトナーで使っているという計算ですね。

■ 委員

公民館とかで輪転機を借りられれば、ずっと安いと思いますが。

■ 委員長

ランニングコストは下がるでしょうね。

■ 委員

全戸配布だったら輪転機のほうがいいと思います。

■ 委員長

輪転機があるかないか書いていませんけど、このくらいの値段だとランニングコストはかかりますがこれくらいの値段だと買いやすいんでしょう。

■ 委員

プリンターが入っている。

■ 委員長

これは恐らくプリンター、ファックス、コピー、全部入っている複合機です。

■ 委員

スキャナー機能もある。

■ 委員長

スキャナーもありますね。本当にベーシックな機種です。高いやつではないですね。拡声器も考えると最低限なレベルかもしれませんね。このくらいの備品は。

■ 委員

元々備品を買ってずっと使ってもらおうという考え方でいいと思います。かえてってチラシとかそっちで無駄に使っていないかという気もします。そういうのに使うのだったら、もうちょっと長く使えるものを買ったらという感想です。

■ 委員長

なるほど。多分5年くらいしたらこのプリンターはトナーがなくなりますので使えなくなります。

■ 委員

チラシというのは、ハンドブックみたいなのにしたいということ。予算の組み替えが消耗品から印刷代に移るかもしれない。

■ 事務局

そうです。ハンドブックになれば、印刷屋に印刷してもらうことになります。予算も消耗品から印刷製本費に移ります。

■ 委員

5万9,000円が下の印刷代の方いき、1万5,000円の方に加わる。

■ 委員

チラシだったら、今度こんなにいらないのでは。ハンドブックとなったら話は違うが。

■ 事務局

報告分の印刷も見込んでいます。

■ 委員

消耗品の5万9,000円が、今後ハンドブック印刷費になるかもしれない。

■ 委員長

このインク代というのはトナーでしょうね。下の印刷製本費は、これは具体的にこの事業の報告のための費用っていう目的が決まっているっていう意味で振り分けているんですかね。おもいきり1万5,000円が混じるかもっていう話はいいんですが、わざと分けた意味は目的が違うから分けてくれたんですかね。280部と書いているから、この1万5,000円は具体的目的があるんですかね。

■ 委員

町内会の会員が120名で、町内会29班ということは、その人たちが全部割ると4人。1班は何人位になるんでしょうかね。配布というよりも、班ごとの回覧板でもいいのでは。1人1人に、1軒1軒やらなくても、5人くらいであれば回覧板でその分浮くのではないかなと思いました。割ってみると10人もいかないとなると、あえてコピーしなくても回覧板の方が必ず回るのです。

■ 委員

内容にもよりますね。見て終わりっていうのと。

■ 委員長

取っておいてほしいとなると、全部配布。

■ 委員

120名が何世帯なのか分からない。120世帯というわけではない。

■ 委員

参加者が120名だから、世帯数はもっと多いんということでしょう。

■ 事務局

昨年の訓練は参加者150人を想定して行っています。申請書類を見る限り、世帯数となると280世帯くらいあります。全員は参加しないでしょうから。

■ 委員長

そうすると1世帯1枚というイメージですね。

■ 委員

そうすれば29班あっても、1班10世帯くらいある。

■ 委員

大体1班10世帯くらいはあると思うんです。

■ 委員

全世帯は280くらいということで考えたらよい。

■ 委員長

そちら辺が大事な数字なんですね、底上げを図るには。

■ 委員

そのためにやっぱりコピー機が必要だという方向性の予算だったんですね。

■ 委員長

では、次にまいります。次は、江陽地区自主防災会の江陽地区防災訓練について、皆さんの意見をお願いいたします。その前に質問事項の確認をお願いします。

3. 「江陽地区自主防災会」／「江陽地区防災訓練」

■ 事務局

まず発展性のところで、防災訓練自体は前回より対象者が少なく見積もられているのはなぜかという質問ですが、去年は小中学校だけではなく、周辺企業すべてに声掛けをして、のろしが上がったら避難するというので実施したら、想定よりかなり多くの方に来ていただきました。実際に900名が来たというのは、準備したペットボトル500本、水道企業団から寄付でいただいたペットボトル500本、合わせて1,000本あったうちの、ペットボトルがなくなったのが700本。他に小中学生にあげた分を足すと約900人が参加したということになりました。

ただ今年、基本的には町内会住民を対象にして避難所開設をメインに行います。周辺企業は参加したらだめというわけではないのですが、去年のように地域全体にお声掛けするわけではないので300人としたそうです。去年は中学生も訓練は必須だったんですけど、今年は土曜日なので任意にします。企業と福祉施設にご案内はするけれど、去年ほどのものにはしないということでした。

あと起震車体験というのは、やりたいという話になっていたのも、消防と予定が合えば実施する予定です。

何のビデオDVD作成なのかに関しては、教材用のDVDは昨年中学生には東日本大震災のニュースで流れていたような生々しい三陸沖の津波の映像などを見せていたのですが、小学生にはショックが大きすぎるだろうということで、小学生用のものを15分くらいで編集して作成するということです。自主防災会にたまたま映像作成のプロの方がいるので、その方に実費負担で、自主制作費というよりは実費負担ということで負担してもらうことをお願いすることにしました。

実現性のところで、昨年携帯無線を購入したと思うが、補充する理由を教えてくださいということについては、こちらはファイルに挟んでいる応募団体事業一覧の備考欄をご覧ください。携帯無線は全部で5台必要で、平成25年には3台購入し、今年1台購入し、一気に全部はそろえられないので3年がかりで準備するということでした。

リヤカーを使った訓練を行うのかということですが、リヤカーの訓練は、去年は小屋から重いものを運ぶことだけでした。今年は実際に人を乗せて行うそうです。リヤカーは平成24年に自主防災会組織育成補助金で1台購入しております。最初に避難優先町内会4箇所を整備したいので、4台必要ですが、これも3年がかりで揃えるため、昨年と25年26年と3年がかりで必要な分揃えるということでした。以上です。

■ 委員長

ご質問には明確にある程度計画的なものなど含めてお答えいただきました。皆さんから、他にご意見ございませんか。

■ 委員

小学校との合同研修会、防災学習会みたいなものなので、その辺の巻き込み方っていうところがあるのは、ひとついい点だと思います。物足りないというところでは、地区内の高齢者、子ども、女性といった層別、企業、商店も含めた地域内の層別みたいな感じのところをきちっと把握して訓練に巻き込むようするところが必要なんじゃないかなという気がしています。

■ 委員長

今回は人数を減らすことが目的じゃなくて、限られた力を分けて訓練するということだと思う。先ほど〇〇委員の意見ですが、前回900人集まって、実際どのような状況だったのかなというところを把握されている気がしないでもないですが…結構すごい人数ですからね。

■ 事務局

うれしい悲鳴というか、去年はそこまでたくさんの方が参加すると思っていなかったそうです。

■ 委員

それも地域として継続的な訓練がされているということの成果だと思うんです。それから訓練されている中で、更に反省点なりにおいて機材の購入の仕方が変わってきた。発電機にしろリヤカーにしろ、現実的な対応をすることができる機材が、定期的に購入されているという気がします。その中でそれを更に利用した訓練も当然考えられているので、それは地域としては確実な件数の取り組みをされている。少ない予算の中で最小限必要なものは、準備されているんじゃないかなという見方をしています。

学校を巻き込んだというのは、私はとてもいいことだと思います。小学生であったり中学生であったり、そういう巻き込んで連携してやるということは、私はとても大切なことだと思っております。学校が授業しているときに訓練とか、地域にいるときとか、場所を変えての訓練も当然考えられてくるわけですからね。

■ 委員長

ありがとうございます。ここはそういう感じはありますね。もう継続されているということ。

他にご意見はございませんか。なければ、4番目になります美保野町内会および美保野青年サークル「まきば会」の美保野地区防災対策事業について皆さんからご意見をお願いします。まとめて見いただいている資料の説明をしていただければと思います。

4「美保野町内会および美保野青年サークル「まきば会」／「美保野地区防災対策事業」

■ 事務局

有効性のところで、できればその活用も含んだ計画であればよりよいという意見ですが、先ほどの資料についていたゴミゼロ運動をご覧ください。この実績を活かして、子どもからお年寄りまで一緒にゴミ拾いを兼ねて、一定箇所をチェックして回って防災マップを作成するということでした。防災マップと表現しておりますが、防災のみならず、安全安心マップということで、目印となる建物や消火栓の位置、避難場所、災害伝言ダイヤル、危険箇所、用水路など、そういうところを盛り込んだ内容にしたいが、具体的な内容はこれから話しあって決めるそうです。

実現性にまいるまして、草刈はどのような頻度・何人くらいで実施するのかという質問ですが、10人から15人程度で7月から10月の間、月1回程度で草の伸び具合に合わせて行うということでした。

最後の、防災マップ1,000部の作成だが、配布の仕方に労力を使ってほしいという意見について、回覧板を利用して全戸配布したいが、町内会に加入していない家は直接ポスティングし、老人クラブや会合など何かしら集まりのあるところで配布、地域近郊の各事業所に依頼して、設置・配布するということでした。以上です。

■ 委員長

今回、美保野の事業は新規事業なんですね。

■ 事務局

そうですね。2年前に申し込んで、実施されなかった。再チャレンジです。

■ 委員長

今回リベンジなんですね。

■ 事務局

そうです。2年前も合格点でしたが、件数が多かったのです。

■ 委員

ここは災害以外でも奨励金をもらっている。

■ 事務局

美保野小学校地域連携協議会が、初動期支援コース2回、まちづくり支援コース1回で計3回奨励金を交付されています。

■ 委員

美保野町内会も関わっているでしょう。

■ 事務局

確かに美保野は関わる組織、関わる人たちがだいたい同じです。ただ、まきば会の人たちは必ずしもそこに住んでいるわけではなく美保野にある事業所に勤めている方もメンバーになっているようです。

■ 委員長

事業内容自体は、まとめていただいた一覧の中では、そんなに丸はついていないけれども、一番今回訓練以外のところで考えられているところは防災マップですね。この辺は、経験値としてないのでしょうからどのようにされるのか。その辺は防災という観点で先ほどの防災士の話のように、勉強されるのかな。

新規の活動なので、そこは気になります。限られた人と限られた時間で色々やられているので、作成してそれをどう活かしていくか気になります。

■ 委員

防災マップを作成したのを、防災訓練のときに説明するということだと思います。

■ 委員

福祉避難所の活用とか医療機関との連携とか、それを他の地域と違った取り組み、その地域の実情にあった取り組みをしているなっていう感じがします。

■ 委員長

恐らく美保野は場所的には直接的な被害というよりも、停電もしくは給水配給というところでトラブルが起きたときに、地区としてどうしようかという方向のほうが、結構大事なポイントになってくる。生活していくにあたって、維持をしていくためにというところでしょうね。避難が必要、避難をするという、そういう意味では皆集まって避難をして、そういったライフラインが切れたときにどうするかってことのほうが、防災マップというか、計画の中では結構大事なポイントとなってくるような気がします。そういう視点はあまり入ってないですね。

僕は震災当時、実際震度6強のところにいて被災したので、分かるのですが、ライフラインが全部止まってしまうので、いる人たちが現場で何かしなきゃいけなくなってしまう。それが1週間、2週間と続くと、どこに集まってどうするか、お年寄りへの対応はどうするかという話になる。具体的に家が壊れるとか、そういう話ではなく、そういう防災計画的なところの整備が結構大事なことだという気がしています。

■ 委員

小さい地区では安全安心マップと福祉マップを合体したような感じだよね。消火栓の位置は一般の人には関係あるのだろうか。消防隊じゃないとつなげないのでは。

■ 委員長

実際火災が起きた時の作業になるので、あんまり関係ないかもしれないですね。どうしようもない時には使うかもしれないでしょうが、あまり地元の防災マップには関係ない気がします。草刈りをするのも、消火栓が見えるようにということですね。防災マップのときに、先ほどお話しした方向の話を是非入れてもらいたいというのが要望です。

■ 委員

防災マップはイメージがイマイチ浮かばないのですが、一部 200 円とこんな金額なんです。どういうものなのか。けっこう立派なものですよ。

■ 委員長

カラーですかね。カラーでもいいんですけどね。しっかりしたものであれば。

■ 委員

もっと備品とか買ってでもいいのと思うんです。防災用の何か欲しいとか。

■ 委員

備品を計上していないから。

■ 委員

備品を買えないと勘違いしているのか。

■ 委員

備品があるのでは。発電機も公民館になくても、それぞれの家や施設にはあったり。

■ 委員長

順番からすると防災マップが先でいいんですけどね。きちんと状況把握されてからのほうがいいと思います。来年継続されるか分からないけれど、まずは、地域状況の防災の観点からアクションを起こすということで捉えてもいいんじゃないかなと思います。防災マップが立派になるのかなというところがひとつ予算的に気になるという話です。でも何とも言えないですね。どんなのを作るか分かりませんからね。現状では。

■ 委員

結構期待されるマップだと思います。要援護者の人たちも掲載するというのは、他の地域にはないことなので、要援護者の人の名前まで記載するのが、すごく見てみたいです。

■ 委員長

要援護者があって、その次どうやって要援護者に対してアクションを起こすか、そういう人たちに覚えてもらっておくかというのが、去年とかの申請でも色々出ておりましたね。

■ 委員

結構個人情報絡んでいて、民生委員の方でも動けなかったというのがあるので、実際これはどのように活用していくのか疑問であり期待です。

■ 委員

意外とこの地域は大らかかもしれないです。災害時要援護者はそういった面では結構大変だと思います。

大館で作成した時は、高齢者ひとりとか、高齢者夫婦世帯とか、マーキング名を変えて、名前が入らない白地図にしておりました。美保野は全員の名前を入れる予定なのかな。ゼンリンの住宅地図はコピーして使うと駄目なんですよ。

■ 事務局

そうです。駄目です。

■ 委員

駄目なんですよ。だから、そこまで気を使って、真っ白にしている。町内会長でも民生

委員でもいいが、有事の際には出します。やり方を決めている。美保野は大らかそうだし、本人がいいですよって言えば掲載できる。本人にこういうのを作りますけどいいですかって聞いて、許可が取れば一番いいわけだ。

■ 委員

本当は大切なことですよ。

■ 委員

報告はあるのですか。

■ 事務局

報告会や評価会はありませんが、実績報告書は提出していただきます。委員の皆様にも写しを渡します。

■ 委員

そのときにどんなの作ったか聞いて、見せてもらえばいいですね。

■ 委員

結構立派なのができると思うけど。参考になるのかなと思っています。

■ 委員

あるいは協議して違うものにして、交渉に来るかもしれない。もしかしたら〇〇委員が言った通り、備品を買ってはだめだと思っているのかもしれませんが。備品が揃っていいような地域ではあります。

■ 事務局

別な奨励金で行っている里山づくりでは事業者に色々無料で貸し出ししていただいて、借りて使ったりしているというのは聞いたことがあります。

■ 委員長

地域に機材提供している施設があるのですね。

最後にいかせていただきます。白銀地区自主防災会の白銀自主防災会防災訓練について、皆さんのご意見をお願いします。まずこちらのご意見いただいたほうから説明をお願いします。

5 「白銀地区自主防災会」／「白銀自主防災会防災訓練」

■ 事務局

有効性の下から2番目のところで、大雪時の避難経路の確保はどのような方法で実施するのか（したのか）？という質問ですが、まだ実施はしていませんが、避難経路の優先順位を付けて優先順に除雪機とスコップで歩道を確保していくそうです。

下の実現性にまいるまして、実現可能な事業と判断されますが、除雪機の購入は検討を要するという意見、下の資機材取扱訓練はいいと思うがミニ除雪機1台で効果はあるのかという意見については、ミニ除雪機といっても人力のみで雪かきするよりも断然早く雪かきができるため、最悪の事態を想定したときに備えておきたいということでした。

防寒具の予算は不要ではないか、特殊な仕様の防寒具が必要なのか。防寒具の配布対象は？という質問ですが、防寒具は特殊な仕様というわけではないですが、雪かきは主に夜

間にするので、反射材を付けて、個人所有にならないように、町内会、自主防災会でまとめて管理するようにするというものでした。以上です。

■ 委員長

はい。ありがとうございます。ではこちらの事業について、皆さんからご意見はございませんでしょうか。

除雪機に関しては、この奨励金の対象になる備品として認めるかどうかですね。実際、今年雪が多かったし、どう判断するかです。

■ 委員

防災に関係なく、町内にあればあったで助かるものではありません。防災ということで欲しいというのはあるとすごく助かるので個人的にはいいと思うんですけどね。

■ 委員

雪害ととらえれば防災のために使うことになる。

■ 委員

今年はすごかったですからね。子どもたちも歩道がなくなって危ないとか。

■ 委員

避難経路を確保するという意味ではそういう施設に機材が必要かと思います。

■ 委員長

それなりの大きさの機械だから、どこに保管して、管理されるかというのが大事です。防寒具もそうです。

■ 委員

除雪機はいいと思うんですけど、防寒具は必要なのか。

■ 委員

除雪している人が分かるように、統一して、反射材をつけたぎらぎらしたものだと誰も私物化しないでしょう。多分普段着ないような、町に行くとき着て行けないようなものを買うんだろうなとは思っている。

■ 事務局

基本的に夜中に除雪作業することを想定して、ぎらぎらして分かるようにするそうです。

■ 委員

除雪機する人だけが着る感じですか。

■ 事務局

除雪機をやる人と、人力のスコップでやる人が着るようにするみたいです。

■ 委員

最近の気象状況にすれば、大雨や大雪の時の災害の備えなど、色々な危機管理が求められると思います。全部に対応するのは無理なんですけれども、立場からしていかにして避難経路を確保するかというのは考えます。その地域の実態をどう把握するかが日頃求められるのかなということを感じていました。

■ 委員

除雪機は宝くじかなんかでもらえなかったですか。

■ 事務局

そうですね、宝くじの助成金もあります。あと防災危機管理課が自主防災会に対して出している資機材の助成金も、雪害も災害だという認識で除雪機も認めています。

■ 委員

今年も仮に冬に雪がたくさん降れば、来年除雪機を申請してくる団体が出てくるかもしれないですね。

■ 委員

学校関係で、来年小学校の周年行事が入ってきて、そこで除雪機を購入する計画の学校もあります。

■ 委員

記念事業協賛会で買うのですね。

■ 委員

今はそれが現実なんだということです。普通は考えられないですよ、除雪機を買うなんて。普通は学校の設備などに使われるのですが。

■ 委員一同

それだけ今年は大変でしたよね。

■ 委員長

他にご意見ありますか。

■ 委員

ここの地域の出来事ではないですけど、これまで災害に強い地域づくりの審査を3回しました。個々に訓練なり企画されて、実施されておりますが、防災の専門家が、ある地域をモデルケースとして特定して、例えば今回の雪の場面とか深夜の場合とか、色々悪い条件の中での災害になったときに、どう何が必要でどう動くのがいいのかを想定し試していて、こういう方向性が掴めましたと、各地区に共有するみたいなあればいいんじゃないかなという気がしているんです。

■ 委員長

新規で立ち上げるところは、今回の多賀台のように防災士がいればいいですが、美保野や他のところはどうしているのですかね。

実際モデルケースというと、どうなのでしょうね、地区本来の活動もあるでしょうし、地区ごとの特徴もあるでしょうし、震災のときの受けた被害とかその辺の状況で気付いたこともあるでしょうし。多分モデルケースというやり方もあるのですが、やり方について例えばこういうことしたいんだけど、こういうことは必要だと思うんだけど地域に要望が出てきたときに行政で対応するところはあるのでしょうか。

■ 事務局

防災危機管理課に消防から一人出向していて常駐しております。自主防災組織を立ち上げるときもその方が相談に乗っていますし、この奨励金に申請に来て、具体的な相談を受けたときは、その方を呼んで専門的なアドバイスをしてもらいます。

■ 委員

自主防災会の話をしたときに、聞いたことがあります。結構詳しく教えている。どういう組織作りをしなきゃいけないとか全部教えてくれて、町内に行って説明もしますという話もしています。自主防災会を作っているところはそういう説明とか全部聞いた上でやっていると思います。

■ 事務局

そうですね。要望があれば、地域に出向いて講師として勉強会をしています。

■ 委員

組織作りに参加していなかった側が、どうしたらいいのか分からない状態でやっている可能性はある。

■ 委員長

アドバイザーはちゃんといますし、それについてアドバイスをする窓口があるんですね。恐らくその人の頭の中にはこの地域には今何を順番でやるべきかというのが分かるんでしょうね。

実際は人の方から行かないと駄目だと思うので。人にどうやって参加していただくかってことが、多分皆さん不安なのかと思います。

防災マップを作るところは今回こだけで、マニュアルというのはなんだろうかなど、全部をやればいいのではなくて、今のこの地域にはこれをやる状況にあるだろうし、今参加する人たちがこういったことをやってみて興味を持ってきて動き始めたらやるものからやるっていうのもあるのだなと思いながら見ておりました。

まちづくり活動に対する助成になるので、それを防災という切り口からやっていくにあたっては、実際に地域の力が今どのような状態かというのも見て取れると思います。

防災意識を高めるためにこの助成金を始めましたから、そういったことを考えれば、3年4年経って色々な場面で火を点けるきっかけにはなっているかなという感じは受けています。アドバイスするところがあれば、あとは相談しながら火を点けてあげれば、進むと思いますね。

■ 委員

今聞いていて、安全安心なまちづくり、防災でまちづくり、福祉でまちづくり、安全安心マップでまちづくりみたいな、全部そういうきっかけになってくれればいいのかなっていう感じです。

■ 委員長

切り口だけの話ですからね。

■ 委員

何かひとつきっかけがあればいいので、防災でまちづくり。

■ 委員長

今回はリベンジされているところもありますし、これから本採点していただきます。要は6割満たないというレベルのものがいないか確認していただきたいのと、全体的に8割を越えたところがないので、満額を全部出すべきかどうかを予算的のところは譲れないので、

もう一度ご意見をいただきながらと思っています。

予算額もここで、決めなければいけないので、一応枠内に収まっているというところではありますけれども、残りの時間でそこを確認していただけるようにしたいです。

またご意見があれば確認し、採点に入ってもいいかと思っています。採点のあとは交付金額を確認ということです。採点に入ってもよろしいですか。では採点をしてください。

(事務局が各委員の採点を集計)

■ 委員長

- ・ それでは、事務局より採点の結果について発表をお願いします。

■ 事務局

評価点数の集計結果について発表いたします。

第1位	江陽地区自主防災会	獲得平均点：79.6点
第2位	白銀地区自主防災会	獲得平均点：78.0点
第3位	美保野町内会、美保野青年サークル「まきば会」	獲得平均点：69.2点
第4位	大久喜町内会自主防災会	獲得平均点：66.8点
第5位	多賀台連合町内会	獲得平均点：62.8点

以上です。

【奨励金交付対象事業の選定】

■ 委員長

只今事務局より各事業に係る採点結果について説明がありました。この結果に基づきまして、奨励金交付対象事業の選考並びに奨励金交付金額の決定に移りたいと思います。

先ほど事務局から説明がありましたが、奨励金の交付対象事業については各委員の評価点数のうち、最高得点と最低得点を除いた評価点数の平均が概ね6割以上の案件につきまして、点数の高い順に選定することになっております。

奨励金額は、各委員の評価点のうち最高得点と最低得点を除いた評価点数の平均点が8割以上の団体には、上位から順に申請金額満額を交付します。また各委員の評価点数のうち最高点と最低得点を除いた評価点数の平均点が満点の6割以上8割未満団体には、委員の皆さんにより交付金額を決定することにしております。

それでは獲得平均点の順に奨励金額を決定していきます。先ほどから申し上げておりますが、8割以上はございませんので、交付金額を皆さん方と協議した上で決定していきたいと思います。これまでの奨励金の予算金額は150万円でございます、順位とすれば5

位までの合計で 150 万円になっております。委員の皆さんからご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

1 番 2 番に関しましては、78 点ということで、これは元々の地域づくり計画に入っていること、それにより他団体と 10 点近くの差がついている状態です。得点が 8 割にかなり近いことで、私としては満額にすることをご提案したと思います。

3 番 4 番 5 番につきまして、今回は 6 割台ということになりますので、皆さんからご意見いただきたいです。いかがでしょうか。予算から判断すると、今回すべて満額支給することができます。附帯意見を付けて満額という考え方が出ましたし、そういったことも含めて意見をうかがいたいです。

■ 委員

満額でいいです。

■ 委員

点数差からすると少し差をつけたいところですが、枠があるのであれば、満額でいいと思います。

■ ○○委員、○○委員、○○委員

満額でいいです。

■ 委員長

意見とすればちょっと点数的な開きは、1 位と 5 位であります。概ね 6 割を越えている中での協議した結果とすれば、すべての団体に対して満額の交付ということで決定してするというので、委員の皆さんいかがでしょうか。

■ 全委員

異議なし。

■ 委員長

それではそのように審査結果を決定したいと思います。団体すべて 30 万円ということで、確認いたしましたので、その交付決定の手続きを進めていただきたいと思います。審査の方は以上で終了となりますけど、皆様から他に何か意見はありますか。無いようですので、これで議事は終了させていただきたいと思います。

4. 閉 会

(司会：市民協働グループリーダー 中里)